



# 黒島魂

～しまごころ～

「みかきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

「わかりあい(ワクワク)」



## 教師の働きがい

現代社会において、学校に対する風あたりは強く「教師」という職業もあまり良い印象はもたれていないようです。職場環境が「ブラックである」という、マイナスのイメージも広まっています。果たして、教師はそんなに大変な職業なのか？教師の働きがいとは何か？私なりの考察をさせていただきます。

平成6年4月1日、当時児童数1000人を超える、長崎県一のマンモス校で私の教師人生はスタートしました。何をしてもよいかかわらず、右往左往しながら始業式の日を迎えましたが、着任式でステージに立った時、その人数に圧倒されたのを覚えています。初めて担任したのは5年生です。教室で38人の子供たちの前で自己紹介をしました。その時の緊張感と自分のような者が担任など務まるのかという不安と、キラキラした子供たちの瞳は、今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。授業は今思い出しても頬が赤くなるほどひどいものでした。しかし、それを補うためにとにかく子供たちを笑わせようと必死にトークを磨く日々でした。(指導の先生からは「授業力をつける方が先では？」と疑問を投げかけられていましたが…) また、先輩方の「若い頃はとにかく、子供と遊びなさい」という言葉を忠実に守り、昼休みは全力でドッジボールや鬼ごっこをして遊びました。その成果でしょうか、子供たちとは良好な関係を築くことができ、初任者研修のつらさを吹き飛ばすほど、毎日が楽しく、あっという間に修了式の日を迎えました。教室で最後の「さようなら」をした時のセンチメンタルな気持ちは、今でも忘れられません。

それから30年経ちますが、教諭時代に22回の学級担任と1回の理科専科をさせていただきました。この期間のべ600人ほどの子供たちを担当しました。さらに同学年で体育の指導を行ったり、教頭時代も含めて、専科として複数学年の授業も担当したりしましたので、直接かかわった子供は、その2倍から3倍の人数になると思います。その他勤務した学校の子供たちを含めると数えきれないほどの子供たちとかかわりをもたせていただいたことになります。



つたない経験ではありますが、この30年間の教師人生で、私が実感した教師の働きがいと何か？1つに絞るのは難しい作業ですが、あえて言うのであれば「**日本の未来の創造にかかわることができる**」喜びです。

使い古された言葉かもしれませんが「**子供は日本の宝**」です。そして、**大なる可能性**を秘めています。これまで出会った子供たちのすべてが、それぞれ何かしらの強みをもっていました。もちろん本校の児童生徒もです。私など足元にも及ばないほどの豊かな発想力や調整力等を存分に発揮し、助け合いながら課題をクリアしていく姿を目の当たりにし、心から感心するという毎日を送ってきましたし、それは現在もそうです。「**きっと、この子供たちなら立派に20年後、30年後の未来の日本社会を支えてくれる**」と信じ、その強みを更に伸ばせるよう後押し（支援）を懸命にしてきた（している）と自負しています。

初めて担任した子供たちは、今40歳ぐらいです。社会の中心で活躍している年齢です。残念ながらその様子を知る術はありませんが、小学5年生の頃の顔を思い浮かべつつ、どんな活躍をしているのかを想像するだけで、何だか嬉しくなります。実は、私の教え子の中に、県内で教師をしている人が数名います。市内に勤務している先生とは、過去に数回お会いすることができたのですが、その際、当時の授業の話題になり、よく教科書と関係ない話をして盛り上がり、残り数分で慌てて指導内容を終わらせることをしていましたので、嬉しいやら恥ずかしいやらで「なんかごめんね…」と満面の笑顔で謝罪する自分がいました。

教師という職業は、他の職業と同様に変です。しかし、他の職業にはない魅力（働きがい）があることは確かです。昨今の報道によると、教師のなり手不足が社会問題化しています。聞けば、教育学部の学生が、教育実習に行った際、学校の現状を見て驚愕し、教師になるのをあきらめるとのことです。それが事実なら私は残念でなりません。それは学校の現状を見て驚愕したのであれば、「**自分が教師になり学校を変えてやろう**」という気概のあるタフな人材を、これまでの学校教育が育てることができなかった証であると思うからです。更には言えば、そのような考えで教師をあきらめたのが事実なら、他の職業に就いたとしても、果たして諸課題に対応できるのか…と余計な心配もしてしまいます。**世の中に大変ではない職業は存在しない**ですからね。

私は、「**日本の未来の創造にかかわる喜び**」を噛み締めつつ、「**自ら未来を切り開く力の育成**」という学校教育目標の具現化をめざし、これからも教師という職業を堪能していこうと思っています。